

# 安田の目

- 8 -

「不動産テック」という言葉を聞いたことがあるだろうか。不動産テックは、

ボルテックス

安田 憲治



## 不動産テックの進化とトレンド

と、テクノロジーを組み合わせた造語」という言葉が、近年急速に使われるようになった。

不動産テック協会は、2 した単体のマップになった

◇やすだ・けんじ 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了。大手総合アミューズメント企業で、データサイエンスの経営戦略への反映に取り組み。現在、株式会社ボルテックスにて、社内データコンサルティングに携わる。多摩大学社会的投資研究所研究員。

テクノロジーを活用して、016年6月から不動産テックに関する業界地図である『不動産テックカオスマップ』を公開しており、今年8月には約1年ぶりの第9版が発表された。第8版との主要な相違点は▽「生成AI」のカテゴリが追加されたこと▽不動産にかかわらずクラウドファンディング

ことだ。米国カリフォルニア州サンバールに本社を置くマターポートは、「ジェネシス」という生成AIを取り入れたデジタルツイン（現実空間を仮想空間に再現する技術）のサービスを発表し、注目を集めている。これまで、米国における不動

00億円程度という見込みとなつていて、背景に産クラウドファンディング協会が今年8月に設立された。不動産クラウドファンディング業界の信頼性や透明性の向上を目的に、業界ルールやガイドラインの制定、データベースの整備、格付けの作成など取り組みを拡大させていく予定となっている。

現在「不動産テックは、キャズム（商品やサービスを市場に広く普及させるまでの障害）を超えた」といわれる。バーチャル内覧などのテクノロジーを活用した不動産サービスの浸透が一因となっている。今後は

クラウドファンディングについては、サービスの急増や不動産クラウドファンディングの市場規模が19

行政やライフスタイルなど、不動産テックと関わる領域でのビジネスチャンスの拡大が考えられる。